

住吉盆（八膳の内）

奈良市難司町 手向山神社蔵

檜材 黒漆塗 高約4.7cm・横30.3cm・縦29.9cm

室町時代

古くより手向山神社に伝えられているもので現在は八膳を残す。桧材で布を貼りその上に黒漆をかけて仕上げたもので本格的な作成といえよう。天板のみに朱漆を塗っている。

住吉盆という名称は必ずしも正確な呼称かどうかは別として神社で古くより呼ばれている名称で、これは祭礼、手搔会の時に神饌をもる器に使用されていた。神社に伝わる文政四年校写になる「東大寺八幡宮祭礼転害会図絵」（二巻）の「伝供」の場面に神饌をもったこの器が明写されているのをみても判る。

天板の朱漆は八膳とも所々はげてはいるが、全体に保存がよい。小品ではあるがまとまつた姿のまことに美しい作品で、塗漆、形成からみて室町時代の作品とみられる。八膳揃って現存していることも一つの偉観であろう。

（守田公夫）